



令和8年度 幼児教育研修 新人研修（保育ガイドライン）
「保育の基本を深める」～子どもを中心に考える保育実践の方法～
日時：令和8年6月23日（火）14：45～16：45
会場：足立区役所 庁舎ホール
講師：日本体育大学 児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科
教授 齊藤 多江子 氏

児童の権利に関する条約

第3条において、**子どもの最善の利益のために行動しなければならない**と定めている。**子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約**。18歳未満を「児童（子ども）」と定義し、子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するために必要となる具体的な事項を規定している。

児童の権利に関する条約の精神にのっとり

児童福祉法

児童の年齢及び発達の程度に応じて、**その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮され、心身ともに健やかに育成されるよう努めなければならない**。

こども基本法

生涯にわたる**人格形成の基礎を築き**、自立した個人として健やかに成長することができ、子どもの心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、**その権利の擁護が図られ**、将来にわたって幸福な生活をおくることができる社会の実現を目指して、こども政策を総合的に推進する。

保育者（大人）に求められること（社会的・価値観・存在感）

- 子ども一人ひとりを、かけがえのない存在であり、**権利の主体**としてとらえること
- 子ども自ら主体的に環境に関わり、**自ら育つ存在**であることを認識すること

大人が導かない。「コントロールしないといけない」と思うことは違う。
自ら主体的に環境に関わって育つことを理解していく。



「子どもの最善の利益を考慮する」保育4段階（網野，2015）

子どもは**どういう存在なの？**
価値観を豊かにしてほしい

- 第1段階：子どもの命や健康、成長・発達が脅かされないように考慮する
- 第2段階：子どもへの差別、偏見、蔑視がなされないように考慮する
- 第3段階：子どものニーズ、思い、願いを無視、軽視することのないように考慮する
- 第4段階：子どもの意見を確かめるように考慮する



適切な人間観・子ども観は保育者にとって重要な資質の一つ。
「子どもなのだから分からないだろう」などの先入観や固定観念や人格を辱める言動はなされてないだろうか。振り返って考えてみましょう。

演習1

足立区教育・保育の質ガイドライン別冊 保育実践振り返りシート「**子どもの人権について**」を使ってチェックしてみて、感じたことや考えたことを書き出し、みんなで共有しました。

大人が「こうしてあげた方が良い」と思ったが、子どもにとってはどうだったのか、振り返った時に思った。

振り返ることは大事なこと

子どもの良さを積極的に見つけていきたい



保育所保育指針における「子どもの最善の利益」

養護および教育を一体的に行う

- 乳幼児の保育・教育は養護の確保を土台として教育が成り立つ
- 養護とは安全と安心。養護の土台に教育がある。
- 養護と教育は、遊びや生活の中でどちらも含まれる。
- 子どもは、主体としてのあり方を尊重される中で、自己が育ち、そこから他者との関わりや社会へと世界が広がる



生命の保持・・・一人一人の子どもに目を向けていく
情緒の安定・・・人との関わりの中で育っていく。(土台)
→身近な大人の存在がとても重要
自分が「こうしたい」という気持ちをもって生活する。

子どもの主体性と子ども理解

- 子どもの主体性を理解すること
→一人ひとりの子どもを理解すること
- 主体性を尊重する
→こども理解に基づいた一人ひとりへの援助方法や保育環境を整える
- 主体性を尊重するための方法を考えること
→個別性への配慮

「子どもの最善の利益」・「子どもの主体性」について、二つの言葉から思い浮かぶ食事場面を、エピソードとして話し合いました。

- ★何でも混ぜて食べてしまう子が、自分で楽しんで食べている。気持ちを尊重し、食べる意欲を認めている。
- ★配膳準備が整っていない時に食事に誘ったため、おかずを配膳すると食べてしまった。その時は食べたい気持ちを受け止めていた。その後は、配膳が整ってから誘い、自分で選んで食べられるようにしている。

集団での生活における配慮

子どもの発達について理解し、一人一人の発達過程に応じて保育すること。
その際、子どもの個人差に十分配慮することについて話し合いました。

- ★自分の思い通りにいかないことで癇癪を起こす。
→気持ちに寄り添いながら、前向きな言葉掛けをしている。「私も○○と思うよ」など共感する言葉、ポジティブな言葉を伝える。
- ★3人を担当している。1人は生活、遊びも安定しているが、2人はまだ泣くことも多く、抱っこで気持ちを受け止めている。安定した生活が送れている子は、夕保育の時に入ってくれる大人の姿を見て喜ぶ様子があり、自分との関わりの中では見たことがない姿だった。その様子に「自分はその子に手をかけていない?」「自分とは愛着ができていないのかもしれない」と思うことがある。



抱っこをする時でも、アイコンタクトをしたり、言葉をかけたりしていくと良い。
離れていても、抱っこしていなくても、距離があっても、アイコンタクトや言葉をかけていくことで、自分の思いを伝えていくことが大事です。

演習2

担当しているクラス等において、今課題だと感じたことや気になったことを書き出し、みんなで共有し合いました。

- ★0歳児クラス
食事 3回に分けている。3巡目の子がお腹が空いてしまう。気持ちに寄り添った言葉はかけているが・・・。

- 他園からの実施例が上げられました。
登園した時に家での食事時間を考慮している。
時には子どもの状況により、日によって順番を変えている。

- ★3歳児クラス
気の合う友達とやりたい気持ちややりたくない気持ちが違う時にはどうしたらいいのか・・・。

- 他園からの実施例が上げられました。
トラブルになりそうときは、すぐに大人が入らなくても、子どもが何とかしようとする力がある。必要に応じて代弁したりする程度だが、少し見守ることもあって良いのではないかと思う。

研修生の報告書より

- 研修を受け、自分自身が子どもの人権を大切に、保育をしていると思っていても、保育の振り返りシートでチェックしてみると、チェックがつかない項目もあり、子どもの人権を守りきれていないことに気づきました。この気づきから、保育の中で、まだ不慣れな点もあり、焦りや不安を覚えることも多いですが、落ち着いて目の前の子どもに対して丁寧に関わる意識だけは、常に持てるようにしなければならぬと感じました。チェック項目を時々見返し、子どもとの関わりをこれからも大切にしたいと思います。